

⑦カバサール

生理中のホルモン採血の結果でプロラクチンが高い時にカバサールという薬が出されます。

カバサールとは

キッセイ薬品が販売している薬(薬価 0.25mg 錠=90.6 円)で、主成分はカベルゴリンです。

カバサールは体内のドパミン受容体というタンパク質を活性化させる薬で、ドパミン作動薬と呼ばれています。

プロラクチンは、脳下垂体から分泌されるホルモンで、出産後「母乳を作れ」という指令を出しているホルモンです。出産していない女性がプロラクチンを大量に分泌しているケースを高プロラクチン血症と呼びます。

ドパミンは、プロラクチンの分泌量を下げる働きを持っています。そこで、カバサールの出番になります。カバサールは、ドパミン受容体を刺激して、ドパミンの働きを強める作用を示します。その結果プロラクチン分泌が低下します。

カバサール服用方法

1 週間に 1 回(同一曜日)就寝前に服用します。1 回 1 錠(主成分として 0.25mg)から服用を始め、臨床症状を観察しながら、少なくとも 2 週間以上の間隔で 1 回量を 1 錠(0.25mg)ずつ増やし、維持量[標準 1 回量 1~3 錠(0.25~0.75mg)]が定められます。年齢、症状により適宜増減されますが、1 回量の上限は 4 錠(1.0mg)です。妊娠が確認されたら原則として内服を中止します。また産後に授乳を望む場合は投与再開を遅らせます。

カバサールの副作用

副作用としては吐き気があげられます。服用していると慣れてきます。吐き気がひどい場合は吐き気止めと併用します。その他便秘、めまい、ふらつきも報告されています。

カバサールの他の使い方

①断乳をしたい時に用います。

産後授乳を希望しない場合ですぐ母乳を止めたい場合に用います。通常、成人は 4 錠(主成分として 1.0mg)を胎児娩出後に 1 回のみ食後に服用します。これにより母乳が完全に止まります。

②OHSS の治療

カバサールが OHSS の治療効果がある事が論文で証明されています。

ちなみに

カバサールはもともとパーキンソン病という病気の治療薬として開発されました。パーキンソン病では脳の黒質からのドパミンの分泌がとまってしまい、体の運動がうまくコントロールできなくなります。

カバサルはドパミンと同じくドパミン受容体を活性化することができるため、不足したドパミンの働きを補う作用を示し、パーキンソン病の症状を抑えることができます。